

8. 中国（地域別調査機関：（社）中国地方総合研究センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	一般レストラン（店長）	・ B S E の影響があるものの、乗客数は前年比で100%を維持している。 ・ 販売を休止しているメイン商品のフィレステーキ解禁と消費者の食への安全の確立ができれば回復する。
	やや良くなる	百貨店（営業担当）	・ 競合他社のオープン、大規模なりニユールが相次ぎ、マーケットのパイは変わらないものの、地域の消費マインドは高揚している。
		家電量販店（予算担当）	・ 大型液晶テレビやプラズマテレビ、DVDレコーダーなどの売上が好調であることに加え、パソコンの売行きも上向き傾向にある。 ・ 今後シングル需要に期待が持てる。
		その他専門店〔贈答品〕（店員）	・ プライダル時期に入るため、店内も週末には若いカップルなどが引き出物の相談によく来ており、記念品を実際に見て購入を決めるようになってきている。
		その他飲食〔ハンバーガー〕（経営者）	・ B S E、鳥インフルエンザがこれ以上の広がりを見せなければ、昨年水準の売上が達成できる。
		都市型ホテル（スタッフ）	・ 婚礼予約は減少しているが、一般宴会の予約状況が順調に推移している。
		タクシー運転手	・ 例年と異なり、乗客の話に先行き不安の話全く聞かなくなってきた。
		通信会社（企画担当）	・ 接続サービス自体の競争は厳しいものの、これ以上の価格下げの方向はないと予想している。 ・ 通信のブロードバンド化は今年も順調に進行し、それに伴ってこれまでの接続サービスに対するV O I Pや動画コンテンツ等のオプション的サービスの利用者も増えていくため、客単価は上昇していく。
		競艇場（職員）	・ 4月に独自のレースをするため、乗客数、売上の向上が図れる。
	変わらない	商店街（代表者）	・ 売行きは低迷しており、客の財布のひもが非常に固い。 ・ 単価が安いだけでは絶対に売れず、客が商品を選択する上で、安い上に感性が合わなければならないとする欲求が非常に増しており、購買までのハードルが非常に高い。
		百貨店（営業担当）	・ パーゲン期でも顧客の動きが悪いため、春物プロパー期になっても回復は期待できない。
		スーパー（店長）	・ 客の価格優先の買い回りは続き、販売量、客単価の下落は続く。 ・ B S E による豪州産、国産牛肉の値上がりや、鳥インフルエンザの影響が出る。
		スーパー（店長）	・ 消費マインドは非常に低く、買上点数も伸び悩んでいる。 ・ 消費者が食に対して敏感になっており、安全な商品提供に全力を挙げているが、消費者に認知されるに至らず、厳しい状況が続く。
		コンビニ（エリア担当）	・ 競合するスーパーマーケットの長時間化は一段落しているものの、客の動きが競合他店やスーパーマーケットに向かっている状況であり、今後も苦戦を強いられるため、現状と変わらない。
コンビニ（エリア担当）		・ ここ数か月比較的堅調に乗客数、売上ともに推移していたが、現在伸び悩み感が感じられるため、当面現状並みで推移する。	
衣料品専門店（地域ブロック長）		・ 4月からの消費税総額表示の影響により、客の不信感が増すことが懸念される。	
衣料品専門店（販売促進担当）		・ 店舗、メーカーとも春物の売れ筋商品を絞り切れない状況で、定番デザイン商品が苦戦しそうである。	
家電量販店（店長）		・ 中、小型テレビは不調であり、季節商品やパソコンは前年並みであるものの、大型テレビが好調であるため、全体的にはやや上向きの傾向にある。	
乗用車販売店（統括）		・ 2～3月は需要月であり、例年販売台数は増えるが、前年と比較するとコンパクトカーの販売に厳しい状況が予想される。	
乗用車販売店（統括）	・ 乗客数の増加はあるが客単価が上昇しない。 ・ 客が安ければ良いという価値観をまだ振り払うまでには至っていない。		
乗用車販売店（営業担当）	・ 例年ならば3月実売期に向けた客の動きが1月ごろからみられるが、今年はそれもあまり見受けられない。		

	その他専門店〔書籍〕 (従業員)	・年始から芥川賞、直木賞の話題が盛り上がり、非常に好調に推移しており、しばらくこの状況が続くそうである。
	高級レストラン(スタッフ)	・2月ごろの予約状況が悪くなっており、好転するのは春先だと予想されるが、法人関係の利用が伸びてくるかどうかは、何とも言えない状況である。
	一般レストラン(店長)	・BSEや鳥インフルエンザなど、飲食店にとっては仕入れを圧迫する要因になるため、今後の動向は予断を許さない。
	都市型ホテル(経営者)	・BSEや鳥インフルエンザの影響で食材の高騰が懸念される。
	都市型ホテル(従業員)	・宴会部門の受注は、一部の企業、団体に活気がみられるが、レストラン部門の個人客は特定の顧客が多く、いまだに回復までは至らない。
	通信会社(営業担当)	・値下げ効果に依存しながらも、販売量の動きは順調に推移すると予測できる。
	その他レジャー施設 〔温泉センター〕(営業企画担当)	・日帰り温泉部門は来客数に先月同様若干の好転はみられるものの、客単価の伸び悩みが大きく安定的ではないため、この先はまだ不安要因も多い。 ・温泉ホテル部門も日祝日の前日の予約状況は例年どおりだが、シーズンであるにもかかわらず平日予約の状況は若干悪く、てこ入れを検討している。
	設計事務所(職員)	・20戸程度の一戸建住宅団地が、建設完了前に既に完売となっており、個人住宅向け関連の景気は依然としてやや良い状態が続く。
	住宅販売会社(従業員)	・来場者数の回復が依然みられず、受注金額が抑えられた状況が2、3か月は続く。
	住宅販売会社(経理担当)	・例年契約数は1月中旬から回復してきているが、今年は伸びがみられない。 ・予約を入れてキャンセルするケースが増えており、顧客の購入意欲が冷え込んでいる。
やや悪くなる	百貨店(購買担当)	・来月は隣接地域の北九州市に大型百貨店が進出することに加え、3月は福岡市天神地区に大きな店がリニューアル改装するため、かなり危機感が強まってきている。 ・北九州、福岡とも1時間足らずで行けるため、客足は必ずそちらに向いていくことを考えると、当地区での購買はかなり厳しい状況が続く。 ・昨年はヤング、ミセス関係はかなり動きを示していたが、既に春物が投入されたものの、新たなトレンドも考えられず、客の動きも鈍いため、悪い状況が強まってくる。
	百貨店(電算担当)	・4月からの消費税総額表示によって、価額が上昇したような感じを客に与えるため、客の購買意欲に影響する。
	スーパー(店長)	・鳥インフルエンザの影響で、消費者の安全志向の高まりから精肉部門の販売量が伸び悩む。
	スーパー(管理担当)	・消費税総額表示の影響が現れるため、販売量が若干低下する。
	スーパー(総務担当)	・BSE問題による米国産牛肉の輸入禁止で牛肉の価格が上昇する一方、鳥インフルエンザで鶏肉が敬遠され、売上が10%近く落ち込んでおり、豚肉や加工肉だけではカバーし切れないため、売上がまだまだ低下する。
	スーパー(店員)	・4月からの総額表示への変更により、余分な費用もかかる上に、店頭売価が上がると値上げしたように見えるため、競合店が価格据置きをするという話もあり、厳しい状況が続く。
	コンビニ(エリア担当)	・酒類免許を申請した競合店に免許が下りており、今後酒だけでなく、酒と一緒に買う商品にも影響が出てくる。
	一般レストラン(経営者)	・BSEや鳥インフルエンザなど食肉関係の問題がまだ当分解決しないため、売上はやや悪くなる。
	旅行代理店(経営者)	・鳥インフルエンザの影響で申込数の多い東南アジア向けの旅行客数が減少している。 ・国内向け旅行も単価が下がり、1～3月の受注売上が例年の25%減と大幅に減少しそうである。
	タクシー運転手	・昼間の客の動きはさほど悪くないが、夜の動きが悪いので、2月も売上が悪くなる。
	通信会社(通信事業担当)	・同業他社のサービス開始により競争が激化する。先方は大々的なキャンペーンを展開しており、しばらくは厳しい状況になりそうである。
悪くなる	スーパー(店長)	・消費税総額表示の影響で景気が悪くなる。
企業	良くなる	-

動向 関連	やや良くなる	一般機械器具製造業（経営企画担当）	・同業他社と共同で国内向けに開発した新商品の前評判が高く、今年の春から出荷に伴い売上の伸びが期待できる。
		電気機械器具製造業（総務担当）	・引き続き新規案件も入ってきているので、好調に推移する。
		不動産業（経営者）	・金融機関が貸出しの制約をやや緩和してきており、企業関係の転勤、事務所や店舗の動きに伴う不動産物件の動きが活発になる。
	変わらない	食料品製造業（総務担当）	・BSE、鳥インフルエンザの影響があっても、魚肉製品へのシフトは感じられず、不正表示などによる消費者安全志向の強化で、売上増加も見込めない。
		化学工業（総務担当）	・経費節減や業務の合理化、効率化等の社内体制の整備により、少し利益が出るようになったものの、収益面での景気回復は厳しい。
		窯業・土石製品製造業（総務経理担当）	・得意先の業績は今後も好調な状況が継続する見込みであり、生産量も現在の水準が続く見込みである。
		鉄鋼業（総務担当）	・中国のインフラ整備などアジア方面へのおう盛な鋼材需要は引き続き継続すると思われ、現状の操業度は変わらないものと予想している。
		電気機械器具製造業（広報担当）	・液晶製品は値段が回復傾向にあり、事業も増えているが、価額競争が厳しくなっており、総じて将来的に変化はない。
		通信業（営業企画担当）	・光ケーブルそのものの普及度もまだ十分でなく、サービスメニューの追加拡大以前に設備建設負担が先行するため、し烈な顧客獲得競争の問題も含めて、厳しい経営環境は続く。
		通信業（社員）	・次年度売上目標の策定期間であり、受注に向けて営業展開中であるが、各社とも予算面で厳しいものがあり、即受注にはなかなか結び付かないのが現状であり、営業を繰り返せざるを得ない。
		金融業（営業担当）	・企業間の体力差が広がってきている。 ・仕事の全体量が少なく、体力のない企業のダンピング傾向が続いており、良くなる状況ではない。
	やや悪くなる	食料品製造業（総務担当）	・BSE、鳥インフルエンザ問題のため、販売量、受注量の先行きが見えない。
		非鉄金属製造業（経理担当）	・価格下落で厳しい製品と、その一方で輸入品の値上げの影響で国内シフトが起こり、代替需要が発生してきている製品があるが、総じて厳しい。
広告代理店（営業担当）		・山口県で発生した鳥インフルエンザ問題で、現在出荷停止状態になっている鶏肉の出荷が今後解禁になったとしても、取引先からの注文量が戻る見込みがなく、この風評被害が収まるには最低3～6か月は必要となる。	
コピーサービス業（管理担当）		・現在期末特需の獲得が最重要項目であり、顧客情報の収集を行っているものの、前年と比べて期待は薄い。特に大手企業等の外注費削減、社内処理体制への方向転換に変わりはない。	
雇用 関連	悪くなる	-	-
	良くなる	民間職業紹介機関（職員）	・特に製造業を中心に求人依頼が増加傾向にあり、人材を紹介してもまだ足りないという声も聞く。
	やや良くなる	職業安定所（職員）	・新規オープン予定のホテルからパート求人を中心に約100名の募集予定があることに加えて、4月開所予定の老人ホームからもまとまった求人がある見込みである。
	変わらない	人材派遣会社（経営者）	・人材派遣の需要は引き続きあるが、求められる職種の幅が広く、要求も高度化しており、人材の供給が不十分に終わっている。
		人材派遣会社（支店長）	・総量的に雇用が創出され、増える見込みは期待できないが、リストラによる過度の人員減のリバウンドとして、採用需要は増える。ただし、高い技能や経験を有したものに偏る傾向もある。
職業安定所（職員）		・大量離職が一段落したため、しばらくは求人求職とも大きな動きはなく横ばいで推移する。	
	職業安定所（職員）	・求人は増加しつつあるが、一方でリストラ予定の企業もあることから、雇用状況の改善はまだ先になる。	

	学校 [ 短期大学 ] ( 就職担当 )	・各企業の採用に関する慎重姿勢は依然として変わらず、好転の兆しは感じられない。むしろ長引く不況を原因とした新規採用の見送りや、採用人数の縮小案など、各事業所の採用担当者からは更なる雇用の引締めを行う姿勢などが感じられる。
やや悪くなる	学校 [ 大学 ] ( 就職担当 )	・現在の求人は離職による補充としての求人が多いため、今後求人が続いたとしても就業者数の増加につながることはなく、離職が一定水準で止まった段階で求人も止まる可能性がある。
悪くなる	-	-